

《日商簿記2級》 —工業簿記—

22. 工業簿記の財務諸表

～製造原価報告書(C/R)とは?～



ミッチ「ボキいろは」 <https://bokiiroha.com>



工業簿記の財務諸表

～工業簿記の財務諸表について～ <商業簿記との違いを把握しよう>

ミッチ「ボキいろは」 <https://bokiirroha.com>



工業簿記の財務諸表

- ・製造業（メーカー）を対象とする工業簿記においても、財務諸表として、一定期間の経営成績を明らかにするための（損益計算書）、一定期日の財政状態を明らかにするための（貸借対照表）を利害関係者に報告するために作成を行う。
- ・なお、製造業では、原価の無駄などに迅速に対応するため、原価計算期間（暦上の1ヶ月）ごとに月次決算を行うが、月次決算で作成する損益計算書は（工業簿記の損益計算書）という。

●損益計算書（報告式）の商業簿記と工業簿記の表示の違い●

<商業簿記>

損益計算書

×1年4月1日～×2年3月31日

I. 売上高		10,000	
II. 売上原価			
1. 期首商品棚卸高	300		
2. 当期商品仕入高	4,300		
合計	4,600		
3. 期末商品棚卸高	600	4,000	
売上総利益		6,000	
III. 販売費及び一般管理費			
:		1,000	
営業利益		5,000	

<工業簿記>

損益計算書

×1年4月1日～×2年3月31日

I. 売上高		10,000	
II. 売上原価			
1. 期首製品棚卸高	300		
2. 当期製品製造原価	4,300		
合計	4,600		
3. 期末製品棚卸高	600	4,000	
売上総利益		6,000	
III. 販売費及び一般管理費			
:		1,000	
営業利益		5,000	

※商業簿記（商品販売業）では「商品」を扱う（商品を仕入れて販売する）のに対して、工業簿記（製造業）では「製品」を扱う（製品を製造して販売する）ため表示方法が異なる。

○貸借対照表（報告式）について○

貸借対照表

×2年3月31日現在

資産の部		
I. 流動資産		
:		
製品	600 ←	完成済みの未販売分
材料	300 ←	材料の未消費分
仕掛品	100 ←	加工途中の未完成品分
:		

～製造原価報告書とは？～

<製造原価報告書の概要とポイントを把握しよう!>



工業簿記の財務諸表

- ・製造業（メーカー）では、損益計算書・貸借対照表とは別に、当期における製造活動の内容を明らかにするために（ ）を作成する。
- ・この書類は、損益計算書に記載される（ ）の内訳を示す役割がある。
※月次損益計算書について作成する場合は「当月製品製造原価」の内訳を示す

月次損益計算書

×1年7月1日～×1年7月31日

I. 売上高		×××
II. 売上原価		
1. 月初製品棚卸高	×××	
2. 当月製品製造原価	×××	
合計	×××	
3. 月末製品棚卸高	×××	
差引	×××	
4. 原価差異	×××	×××
売上総利益		×××

●製造原価報告書の表示方法●

①. 製品との関連による分類で表示する方法

（製造直接費・製造間接費に分類して表示する方法）

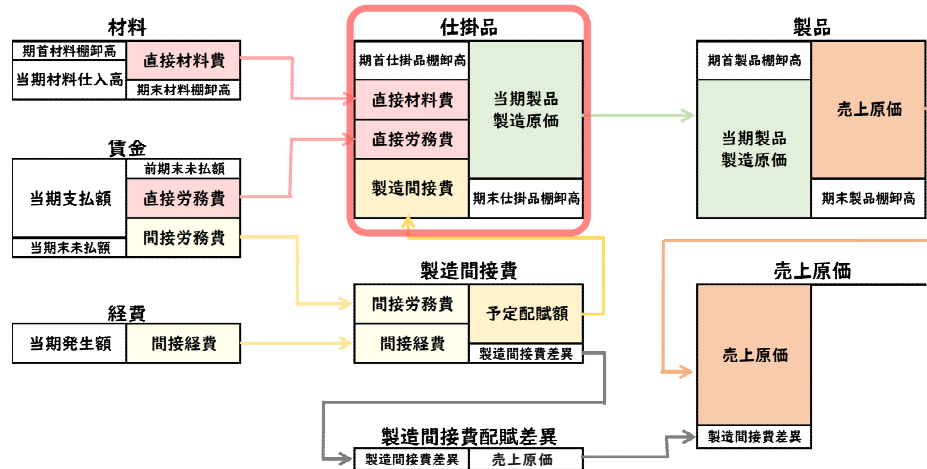
		製品との関連による分類	
		製造直接費	製造間接費
形態別分類	材料費	直接材料費	間接材料費
	労務費	直接労務費	間接労務費
	経費	直接経費	間接経費

②. 形態別分類で表示する方法

（材料費・労務費・経費に分類して表示する方法）

製造原価報告書			
×1年4月1日～×2年3月31日			
I. 直接材料費			
期首材料棚卸高	200		
当期材料仕入高	1,000		
合計	1,200		
期末材料棚卸高	100	1,100	
II. 直接労務費			
直接工賃金	500	500	
III. 製造間接費			
間接工賃金	300		
水道光熱費	150		
減価償却費	250		
合計	700		
製造間接費配賦差異	100	600	
当期総製造費用	2,200		
期首仕掛品棚卸高	300		
合計	2,500		
期末仕掛品棚卸高	500		
当期製品製造原価	2,000		

※製造原価報告書は仕掛品勘定の内容（製品原価・生産の進捗状況）を報告する！

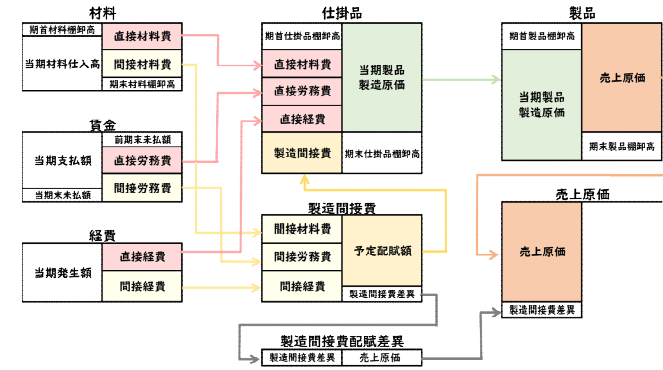


製造原価報告書			
×1年4月1日～×2年3月31日			
I. 材料費			
期首材料棚卸高	200		
当期材料仕入高	1,000		
合計	1,200		
期末材料棚卸高	100	1,100	
II. 労務費			
直接工賃金	500		
間接工賃金	300	800	
III. 経費			
水道光熱費	150		
減価償却費	250		
合計	400		
製造間接費配賦差異	100	300	
当期総製造費用	2,200		
期首仕掛品棚卸高	300		
合計	2,500		
期末仕掛品棚卸高	500		
当期製品製造原価	2,000		

工業簿記の財務諸表

<製造間接費配賦差異の処理について①>

- ・製造原価報告書は、仕掛品勘定をベースに作成していくが、製造間接費を予定配賦する場合、仕掛品勘定の製造間接費は()で計上される。そのため、製造原価報告書に実際発生額で計上された製造間接費については、()を表示して予定配賦額に修正する必要がある。
- ・C/R上で実際発生額を予定配賦額にするためには、製造間接費配賦差異が借方差異(不利差異)の場合は、実際発生額に対して()し、貸方差異(有利差異)の場合は、実際発生額に対して()する。



●借方差異(不利差異)の場合●

製造原価報告書

Ⅲ.製造間接費

実際発生額	間接工賃金	300	
	水道光熱費	150	
	減価償却費	250	
	合計	700	
	製造間接費配賦差異	- 100	600 予定配賦額

製造間接費

実際発生額	予定配賦額
700	600
	製造間接費差異
	100

●貸方差異(有利差異)の場合●

製造原価報告書

Ⅲ.製造間接費

実際発生額	間接工賃金	200	
	水道光熱費	150	
	減価償却費	250	
	合計	600	
	製造間接費配賦差異	+ 100	700 予定配賦額

製造間接費

実際発生額	予定配賦額
600	700
製造間接費差異	
100	

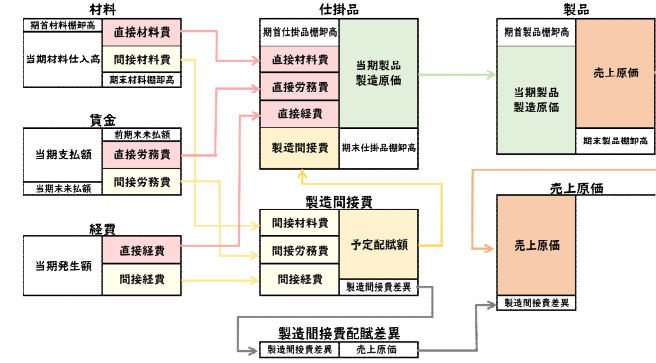
○ポイント○

「+」か「-」かによって得点が大きく左右されるところなのでしっかり理解しておくこと。
 「製造原価報告書は仕掛品勘定の内容を報告する」迷ったらこのことを思い出して下さい。
 慣れるまではT字勘定で考えるのがおすすめです😊

工業簿記の財務諸表

<製造間接費配賦差異の処理について②>

- ・製造間接費配賦差異などの原価差異は、最終的に()勘定へ振替え、そこで差異の加減を行う。
- ・損益計算書における「売上原価」の項目には、「原価差異」として表示していくが、ここで()で計上していた金額を()に修正していく。



●借方差異(不利差異)の場合●

※製造間接費配賦差異を100円(借方差異)とした場合

損益計算書

X1年4月1日~X2年3月31日

I. 売上高		3,000	
II. 売上原価			
期首製品棚卸高	1,000		
当期製品製造原価	2,000		
合計	3,000		
期末製品棚卸高	700		
差引	2,300		
原価差異	+ 100	2,400 ← 実際発生額	
売上総利益		<u>600</u>	

●貸方差異(有利差異)の場合●

※製造間接費配賦差異を100円(貸方差異)とした場合

損益計算書

X1年4月1日~X2年3月31日

I. 売上高		3,000	
II. 売上原価			
期首製品棚卸高	1,000		
当期製品製造原価	2,000		
合計	3,000		
期末製品棚卸高	700		
差引	2,300		
原価差異	- 100	2,200 ← 実際発生額	
売上総利益		<u>800</u>	

○ポイント○

製造原価報告書では、実際発生額を予定配賦額に修正するために、借方差異(不利差異)はマイナス・貸方差異(有利差異)はプラスとなるが、損益計算書では、予定配賦額を実際発生額に修正するため、借方差異(不利差異)はプラス・貸方差異(有利差異)はマイナスとなる。このように、製造原価報告書と損益計算書とでは、製造間接費配賦差異のプラス・マイナスが逆になるので注意すること。

工業簿記の財務諸表

—問題解説—

～全体の流れを問題で確認しよう!～

ミッチ「ボキいろは」 <https://bokiirroha.com>



工業簿記の財務諸表

・製品との関連による分類で表示する方法
 (製造直接費・製造間接費に分類して表示する方法)

《問題》

次の資料に基づいて、仕掛品勘定、製造原価報告書および損益計算書を完成させなさい。

1. 直接材料の期首棚卸高は500円、当期仕入高は2,000円、期末棚卸高は300円であった。
2. 直接工賃金の期首未払額は400円、当期支払額は1,300円、当期末未払額は600円であった。
3. 間接工賃金の期首未払額は200円、当期支払額は400円、当期末未払額は100円であった。
4. 工場の水道光熱費は150円、減価償却費は250円であった。
5. 製造間接費の予定配賦額は600円であった。
6. 期首仕掛品棚卸高は800円、期末仕掛品棚卸高は1,200円であった。
7. 期首製品棚卸高は1,500円、期末製品棚卸高は2,000円であった。

製造原価報告書

I. 直接材料費			
期首材料棚卸高	()		
当期材料仕入高	()		
合計	()		
期末材料棚卸高	()	()	
II. 直接労務費			
直接工賃金	()	()	
III. 製造間接費			
間接工賃金	()		
水道光熱費	()		
減価償却費	()		
合計	()		
製造間接費配賦差異	()	()	
		当期総製造費用	()
		期首仕掛品棚卸高	()
		合計	()
		期末仕掛品棚卸高	()
		当期製品製造原価	()

損益計算書

I. 売上高		4,500
II. 売上原価		
期首製品棚卸高	()	
当期製品製造原価	()	
合計	()	
期末製品棚卸高	()	
差引	()	
原価差異	()	()
売上総利益		()

仕掛品 (単位:円)

期首仕掛品棚卸高 ()	製 品 ()
直接材料費 ()	期末仕掛品棚卸高 ()
直接労務費 ()	
製造間接費 ()	
()	()

工業簿記の財務諸表

《問題》

次の資料に基づいて、仕掛品勘定、製造原価報告書および損益計算書を完成させなさい。

1. 直接材料の期首棚卸高は500円、当期仕入高は2,000円、期末棚卸高は300円であった。
2. 直接工賃金の期首未払額は400円、当期支払額は1,300円、当期末未払額は600円であった。
3. 間接工賃金の期首未払額は200円、当期支払額は400円、当期末未払額は100円であった。
4. 工場の水道光熱費は150円、減価償却費は250円であった。
5. 製造間接費の予定配賦額は600円であった。
6. 期首仕掛品棚卸高は800円、期末仕掛品棚卸高は1,200円であった。
7. 期首製品棚卸高は1,500円、期末製品棚卸高は2,000円であった。

仕掛品		(単位:円)	
期首仕掛品棚卸高 ()	製	品 ()	
直接材料費 ()	期	末仕掛品棚卸高 ()	
直接労務費 ()			
製造間接費 ()			
()	()		

製造原価報告書

I. 直接材料費

期首材料棚卸高 ()

当期材料仕入高 ()

合計 ()

期末材料棚卸高 () ()

II. 直接労務費

直接工賃金 () ()

III. 製造間接費

間接工賃金 ()

水道光熱費 ()

減価償却費 ()

合計 ()

製造間接費配賦差異 () ()

当期総製造費用 ()

期首仕掛品棚卸高 ()

合計 ()

期末仕掛品棚卸高 ()

当期製品製造原価 ()

工業簿記の財務諸表

《問題》

次の資料に基づいて、仕掛品勘定、製造原価報告書および損益計算書を完成させなさい。

1. 直接材料の期首棚卸高は500円、当期仕入高は2,000円、期末棚卸高は300円であった。
2. 直接工賃金の前期末未払額は400円、当期支払額は1,300円、当期末未払額は600円であった。
3. 間接工賃金の前期末未払額は200円、当期支払額は400円、当期末未払額は100円であった。
4. 工場の水道光熱費は150円、減価償却費は250円であった。
5. 製造間接費の予定配賦額は600円であった。
6. 期首仕掛品棚卸高は800円、期末仕掛品棚卸高は1,200円であった。
7. 期首製品棚卸高は1,500円、期末製品棚卸高は2,000円であった。

損益計算書

I. 売上高		4,500
II. 売上原価		
期首製品棚卸高	()	
当期製品製造原価	()	
合 計	()	
期末製品棚卸高	()	
差 引	()	
原価差異	()	()
売上総利益		()

製造原価報告書

I. 直接材料費		
期首材料棚卸高	()	
当期材料仕入高	()	
合 計	()	
期末材料棚卸高	()	()
II. 直接労務費		
直接工賃金	()	()
III. 製造間接費		
間接工賃金	()	
水道光熱費	()	
減価償却費	()	
合 計	()	
製造間接費配賦差異	()	()
当期総製造費用	()	()
期首仕掛品棚卸高	()	()
合 計	()	()
期末仕掛品棚卸高	()	()
当期製品製造原価	()	()

《まとめ》

- 工業簿記では、当期における製造活動の内容を明らかにするため、P/L・B/Sの他に製造原価報告書(C/R)を作成する
- 製造原価報告書は()勘定をベースに作成するが、実際発生額で計上された製造間接費は、製造間接費配賦差異の項目を設けて()へ修正を行う
- 損益計算書において、製造間接費配賦差異などの原価差異がある場合は、()を()へ修正する処理を行う
- C/RとP/Lでは、原価差異の取り扱いが異なるので「+・-」に注意すること



※この回の動画が「いいな♪」「役に立ったな♪」と思ったら、ぜひ、高評価をお願いします♡

第22回の内容お疲れさまでした♪

